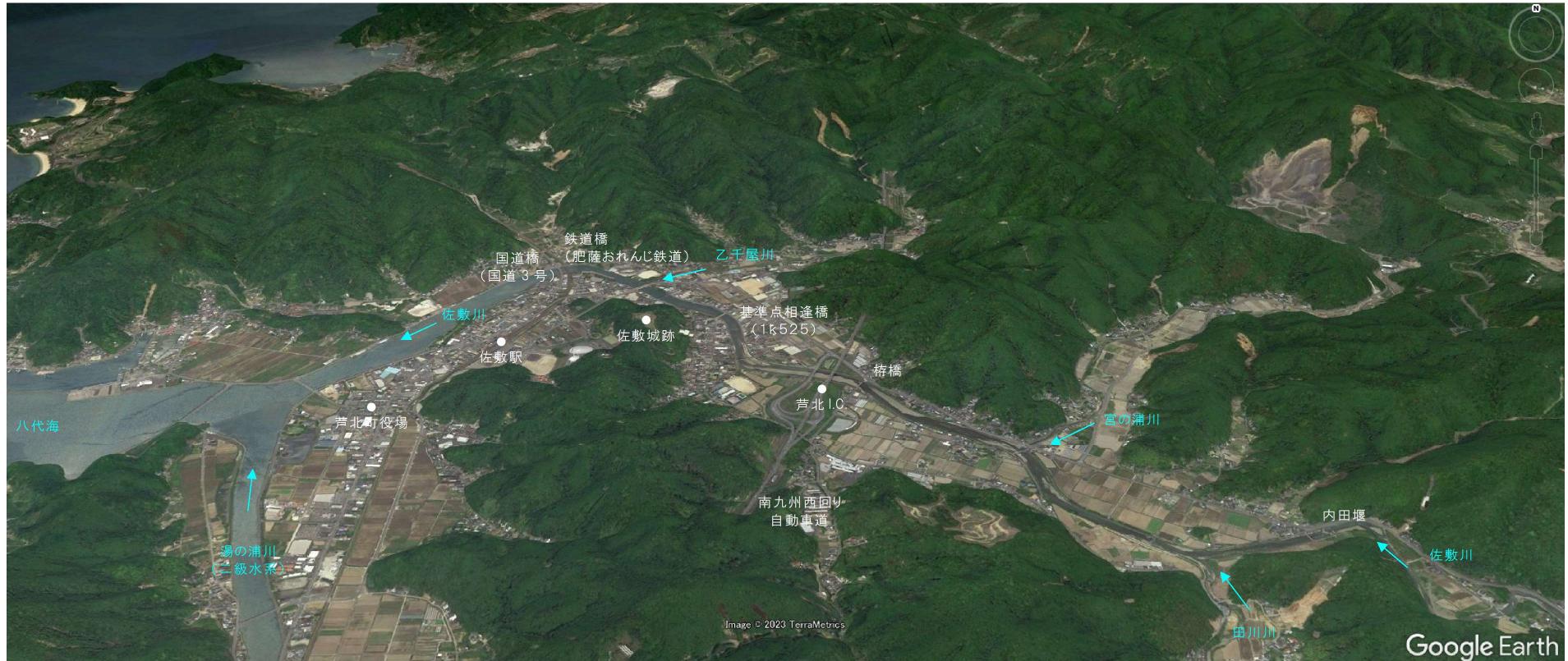


佐敷川水系 河川整備計画(原案) 説明資料



令和7年12月
熊本県 土木部 河川港湾局
河川課

目次:佐敷川水系河川整備計画(原案) 説明資料

1. 佐敷川水系の概要	1
2. 佐敷川水系の現状と課題	5
3. 河川整備計画の対象区間および期間	13
4. 河川整備計画の目標に関する事項	15
5. 河川の整備の実施に関する事項	17
6. その他河川整備を総合的に行うために留意すべき事項	34

1. 佐敷川水系の概要

1. 流域及び河川の概要

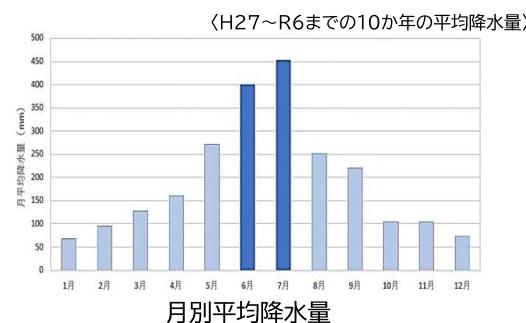
- 佐敷川は、その源を熊本県葦北郡芦北町と水俣市との境にある大関山(標高902m)に発し、山間部を北流したあと、市野瀬付近から流向を西に転じ、田川川、宮の浦川を合わせ、芦北町市街地に入り、更に乙千屋川を合わせ南西に屈曲し、八代海に注ぐ流域面積63.5km²、幹川流路延長16.82kmの二級河川です。

【流域諸元】

流域面積	: 63.5km ²
幹川流路延長	: 16.82km
想定氾濫区域面積	: 1.19km ²
想定氾濫区域内人口	: 2,960人
想定氾濫区域内資産額	: 41,179百万円
主な市町村	: 葦北郡芦北町

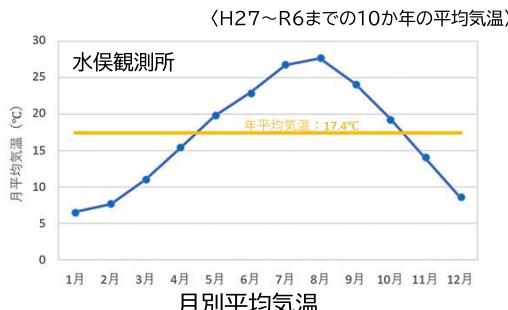
【降雨特性】

- 年平均降水量は約2,340mm(H27~R6)で全国平均の約1.4倍である。
- 降水量の大部分は梅雨期の6月、7月に集中している。

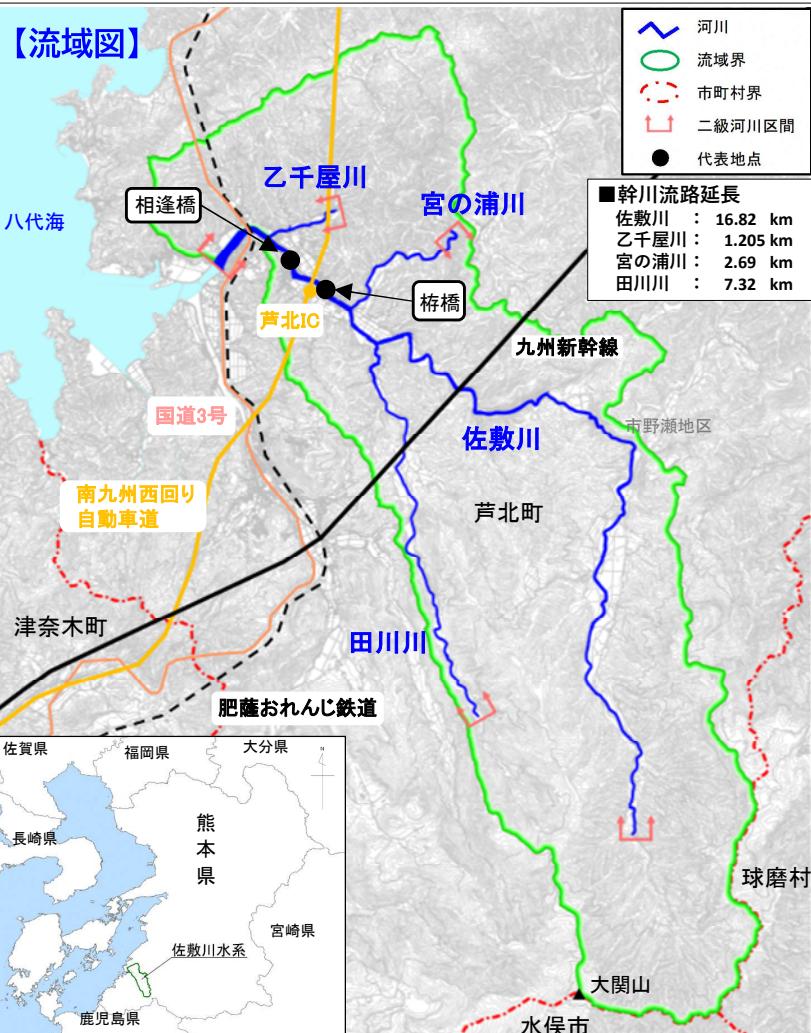


【気温特性】

- 佐敷川は西海型気候に属し、年平均気温は17.4℃と暖かい。

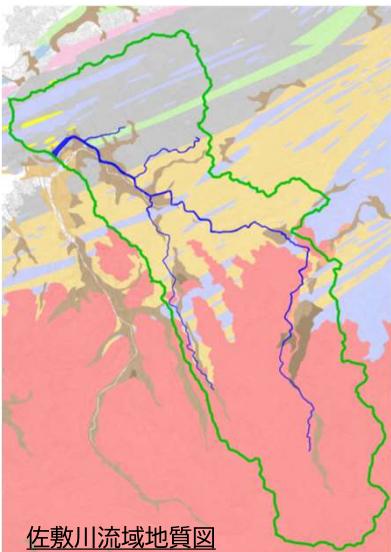


【流域図】



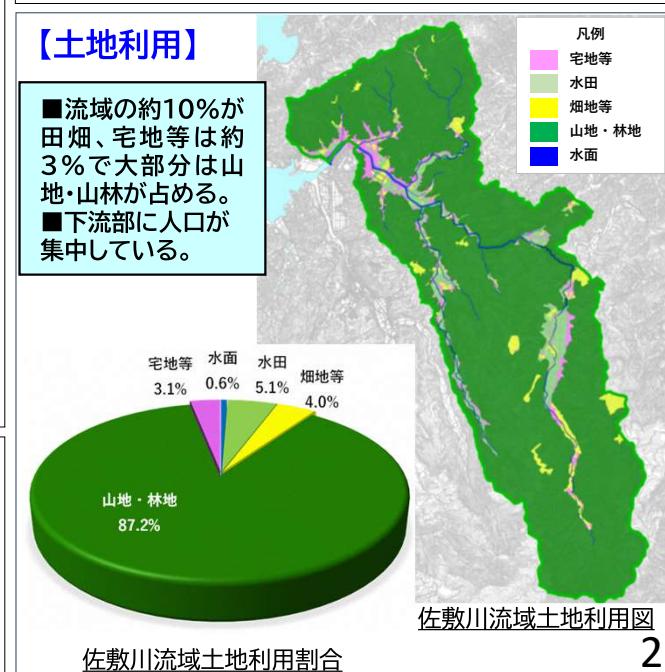
【地質特性】

- 下流部から中流部にかけては「付加体」と呼ばれる層が広く分布している。
- 上流部は付加体の上に安山岩質岩石が覆っており、「洪水安山岩」と名付けられた地層が分布している。



【土地利用】

- 流域の約10%が田畠、宅地等は約3%で大部分は山地・山林が占める。
- 下流部に人口が集中している。



【史跡・文化財】

- 国の史跡に指定されている「佐敷城跡」を中心に、歴史的町並みを形成している。



1. 流域及び河川の概要

【佐敷川】

佐敷川は、その源である大関山から八代海に流下する流路延長16.82kmの河川です。

上流部は山間部に拓かれた水田地帯を流れ、市野瀬付近で流向を西に転じ谷間を流下します。その後、八幡に入ると水田地帯が開け、芦北IC付近より芦北町の中心部となる市街地が広がっています。



佐敷川

【宮の浦川】

宮の浦川は、その源を葦北郡芦北町伏木氏付近に発し、佐敷川に流入する右支川です。流路延長は2.69km、流域面積は7.0km²であり、沿川には家屋や水田が見られます。



宮の浦川

【乙千屋川】

乙千屋川は、その源を葦北郡芦北町伏木氏付近に発し、佐敷川に流入する右支川です。流路延長は1.205km、流域面積は4.7km²であり、沿川には家屋が多く見られ、佐敷川との合流点付近には芦北高校や佐敷小学校等が立地しています。また、上流部では南九州西回り自動車道が横断しています。



乙千屋川

【田川川】

田川川は、その源を葦北郡芦北町丸山付近に発し、佐敷川に流入する左支川です。流路延長は7.32km、流域面積は11.8km²であり、沿川には家屋や水田が見られ、中流部では九州新幹線が横断しています。



田川川

1. 流域及び河川の概要

【河川及びその周辺の自然環境】

- 佐敷川流域は、熊本県の南部に位置し、流域の87%が森林となっており、平坦地は下流部のごくわずかしか存在しません。植生は、流域全体にスギ・ヒノキ等の常緑針葉樹林やシイ・カシ萌芽林等の常緑広葉樹林が広く分布しています。



- 佐敷川流域には、国有林が1,226haあり、これらのうち1,087haが保安林に指定されています。



【佐敷川 下流域】

- 下流域は、藍川橋下流の堰まで感潮区間であり、干潮時には干潟が出現します。植物は、満潮汀線付近で重要種のフクドが生育しています。魚類は、ハゼ類が多く見られ、重要種のトビハゼやヒナハゼの他、シロウオが生息しています。底生動物は、ウミニナやヤマトシジミ等、多くの重要種が生息しています。鳥類は、重要種のミサゴやハヤブサが河道内の干潟を採餌場所として、トモエガモが越冬地として利用しています。また、河口部では、地域と関係機関が協働し、アマモ場再生への取組みを行っており、保全・創出が図られています。



【佐敷川 中流域】

- 中流域は、河道が田園・住宅地帯を小さく蛇行し、早瀬と淵が交互に短い間隔で連続しており、河床は主に礫となっています。植物は、水際部に、重要種のコギシギシやミゾコウジュ、カワヂシャが生育しています。魚類は、ナマズ、アユ、シマヨシノボリ等が生息しています。鳥類は、重要種のササゴイが河川沿いの竹林を休憩場所として、イカルチドリが河道内の砂礫地を採餌場所として利用しています。



【佐敷川 上流域】

- 上流域は、河道が小さく蛇行し、早瀬と淵が交互に短い間隔で連続しており、河床は主に礫となっています。植物は、主にツルヨシが見られ、水際部には重要種のコギシギシやミゾコウジュ、カワヂシャが生育しています。魚類は、オイカワやカワムツ、オオヨシノボリの他、重要種のルリヨシノボリ等が生息しています。底生動物は、カワニナやモクズガニ、ミナミテナガエビ等が生息しています。鳥類はカルガモやヤマセミ、キセキレイ等が生息し、豊かな自然環境を形成しています。



2. 佐敷川水系の現状と課題

2. 1 治水の現状と課題

【治水事業の沿革】

- 治水事業は、昭和25年9月の大出水を契機とし、昭和28年度より中小河川改修事業に着手し、河川整備(築堤、護岸等)を進めてきました。その後、昭和55年度に佐敷川水系工事実施基本計画を策定し、平成元年度に計画に基づく事業が完了しています。
- 事業完了後は、堤防から氾濫するような大きな被害は発生していませんでしたが、令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けたことから、浸水家屋の解消等、再度災害防止に向け、令和2年度から佐敷川水系河川災害復旧助成事業及び防災・減災対策等強化事業を実施しています。

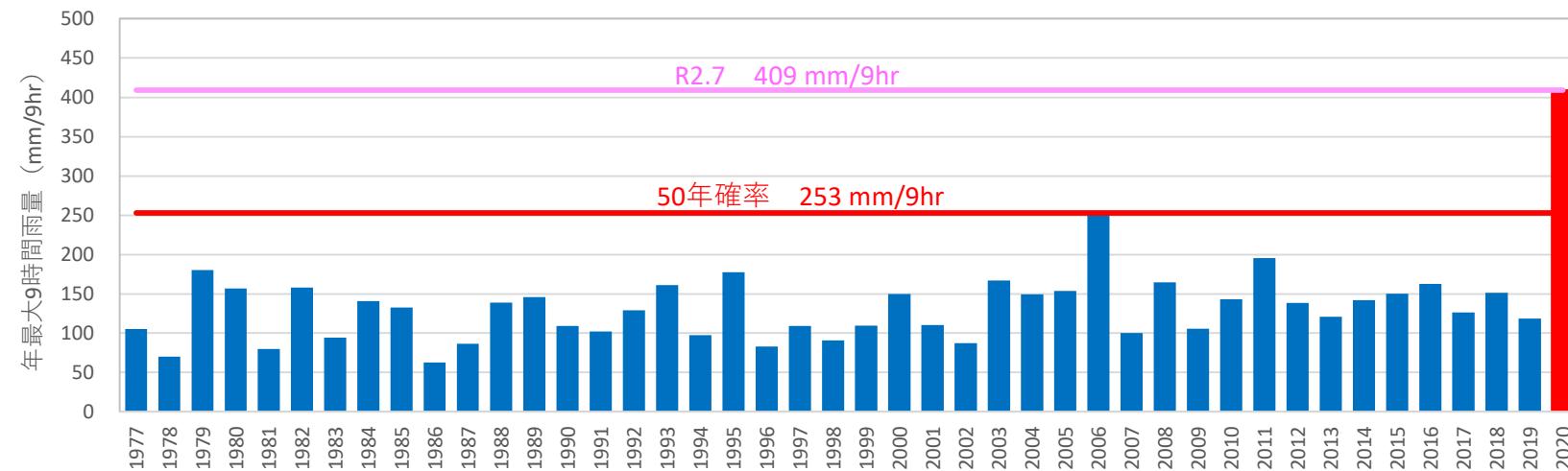


2. 1 治水の現状と課題

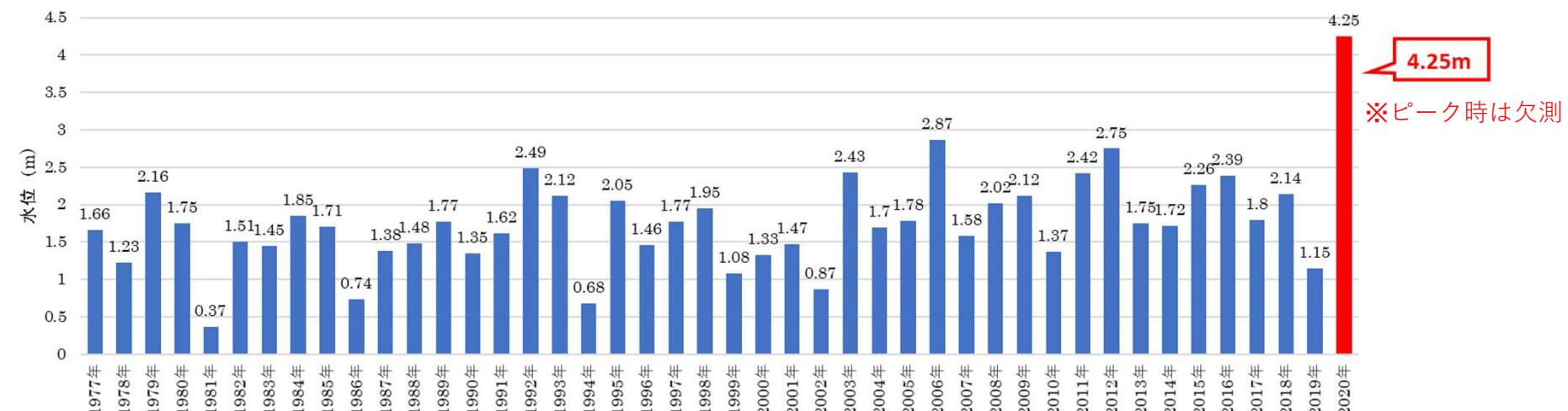
【令和2年7月洪水時の雨量・水位】

- 佐敷川における県の雨量観測所を含めた9時間雨量(相逢橋)の評価では、流域内に時間雨量が整備された1977年(昭和52年)以降、最大雨量(409mm/9hr)を観測しています。
- 1977年(昭和52年)以降の水位を比較しても、令和2年7月洪水が極めて大きいことが確認できます。

■年最大9時間雨量



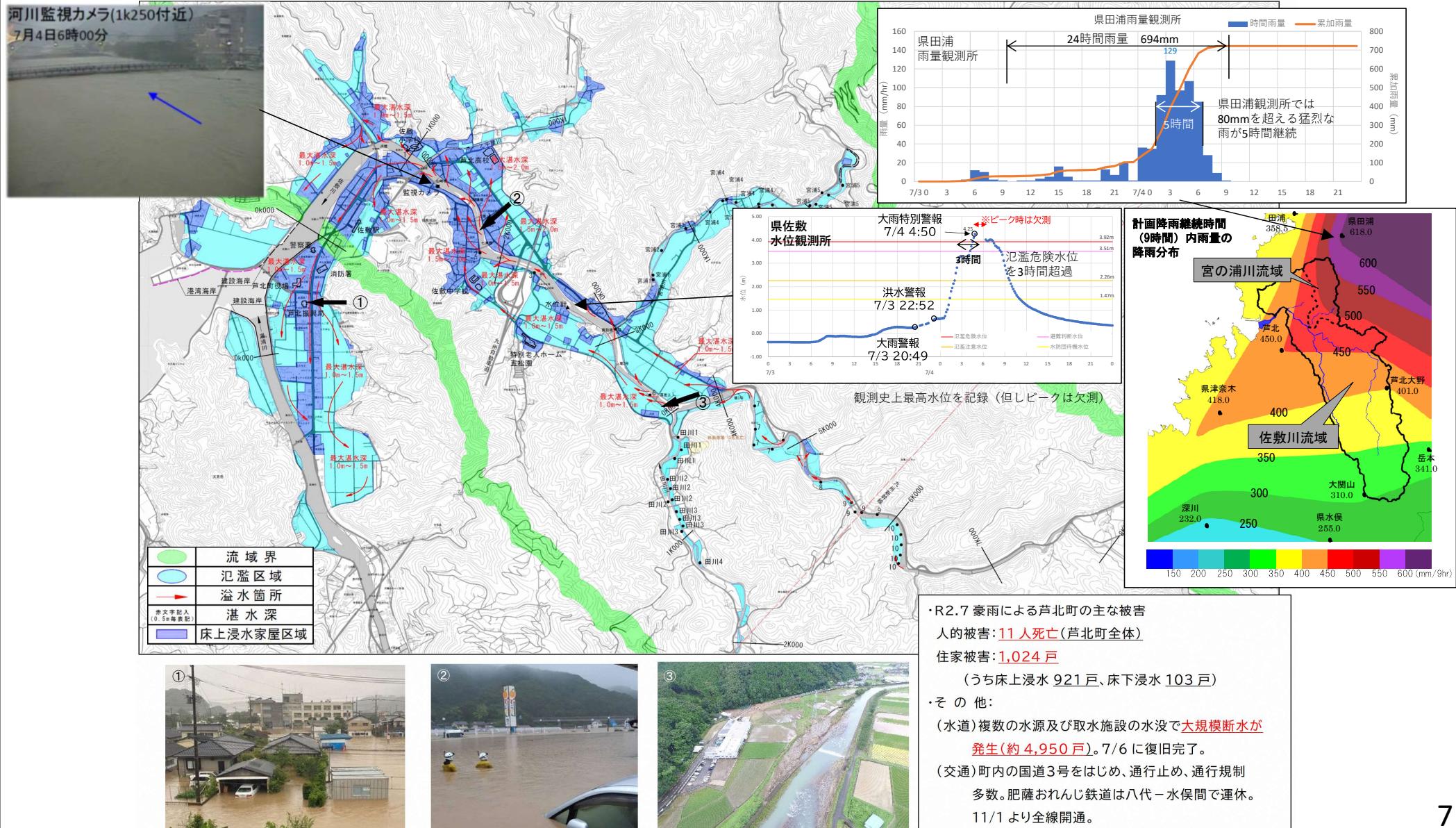
■年最大水位 (県佐敷水位観測所)



2. 1 治水の現状と課題

【令和2年7月洪水による被害状況】

●令和2年7月に、活発化した梅雨前線の影響で線状降水帯が発生し、佐敷川周辺でも記録的な大雨となり、近傍の県田浦雨量観測所では24時間の降水量が694mmの雨量を観測するなど、流域全体で観測史上最大の雨量を記録しました。また、同観測所では1時間80mmが5時間、県佐敷水位観測所では氾濫危険水位超過が3時間観測されました。この豪雨により芦北町の市街地全域が浸水(浸水戸数1,024戸)し、大規模断水(約4,950戸)や、町内の国道3号をはじめとし多数の通行止め、通行規制が発生するなど、地域の社会及び経済に甚大な影響を与えました。



2. 1 治水の現状と課題

【洪水への対応】

- 佐敷川水系では、令和2年7月豪雨を対象に浸水家屋の解消等、再度災害防止に向け、令和2年度から佐敷川水系河川災害復旧助成事業及び防災・減災対策等強化事業により河道改修を実施していますが、近年の出水で浸水被害が発生するなど、さらなる治水対策が必要となります。

【総合的な土砂管理】

- 令和2年7月豪雨では、上流での山腹崩壊等により河道内に大量の土砂や流木が堆積するとともに、氾濫水に含まれた土砂や流木が道路や宅地等にも堆積し、円滑な救助・救援や復旧に支障が生じました。河道内に堆積した土砂や流木は、流下能力の低下や河川管理施設等の操作に支障を及ぼすことがあるため、維持掘削や土砂や流木の流入抑制対策が必要です。
- また、集水域における森林から河川への土砂等の流出をできるだけ抑制するため、伐採跡地の再造林による森林再生やシカ被害対策、治山対策、砂防対策等の取組みと連携を強化していく必要があります。



山腹崩壊(田川地区)



河道埋塞(宮の浦川)



流木による河道埋塞(佐敷川)



流木による河道埋塞(宮の浦川)

【施設能力を上回る洪水等への対応】

- 近年の水災害による甚大な被害を鑑み、施設能力を超過する洪水が発生することを前提に、社会全体で洪水に備える水防災意識社会の再構築を進め、気候変動の影響や社会状況の変化等を踏まえ、流域全体を俯瞰し、国、県、町等あらゆる関係者が一体となって被害の軽減、早期復旧・復興のためのハード・ソフト対策を総合的かつ多層的に推進する「流域治水」に取り組む必要があります。
- また、河川管理施設等の被災に伴う治水機能の低下防止や軽減、早期の治水機能の復旧等、大規模な地震が発生することを想定した事前の準備や発災後の対応等の検討を行う必要があります。
- さらに、内水被害が発生する区間においても河道掘削等のハード対策や既設排水機場の適切な運用を実施することと併せて、内水氾濫の被害を軽減できるように、地域住民が迅速かつ的確に避難できる体制の整備、浸水の危険性の高い地域における土地利用規制、関係自治体等と連携したソフト対策の充実が必要です。



佐敷川浸水状況



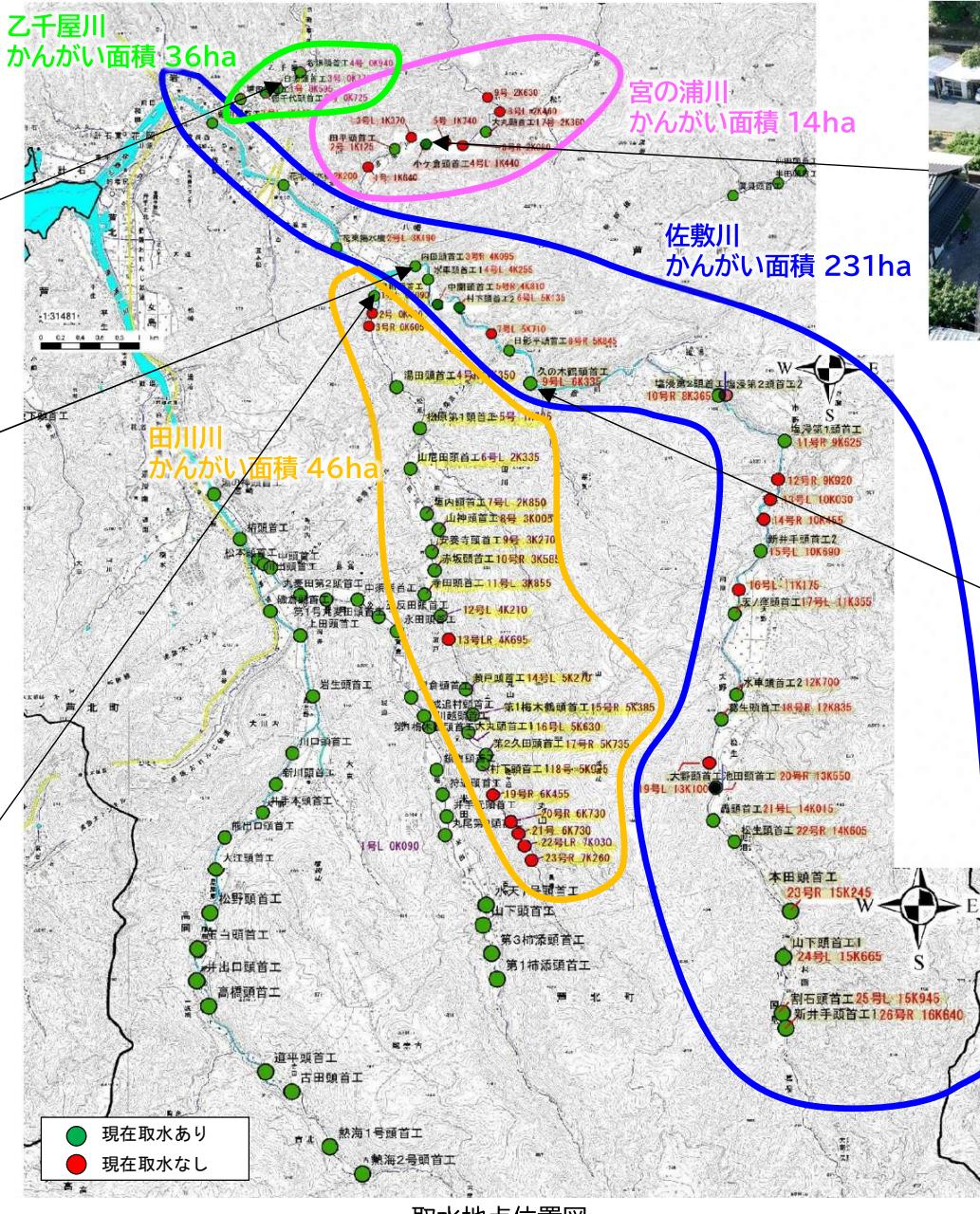
田川川浸水状況

2. 2 利水の現状と課題

- 佐敷川水系の水利用は農業用水が主で、約330haの耕地のかんがいに利用されています。
- 引き続き安定した水利用が行われるよう今後も水利用の動向の把握に努める必要があります。



乙千屋川 日添頭首工



宮の浦川 小ヶ倉頭首工



佐敷川 内田頭首工



佐敷川 久の木鶴頭首工



田川川 見附頭首工

2. 3 河川環境の現状と課題

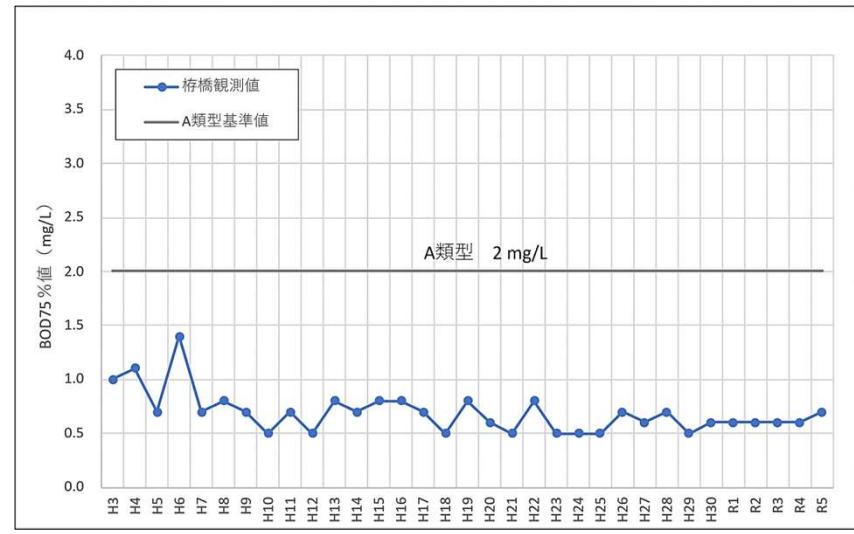
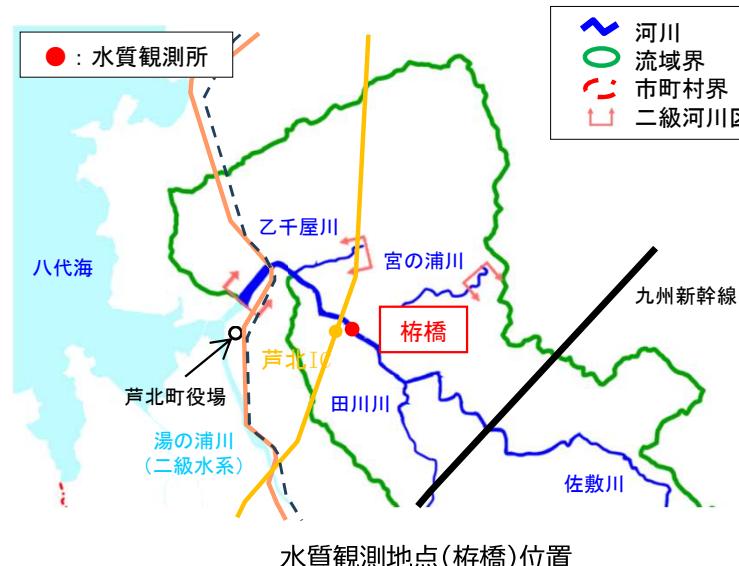
【多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出】

- 河川整備の実施にあたっては、河川の縦断的・横断的な連続性の確保や水域と陸域がつながる良好な河川環境の確保等、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出を図ります。また、佐敷川流域の歴史・文化を踏まえ、良好な河川景観の保全・創出を図る必要があります。
- 上流域では、重要種のルリヨシノボリ等の魚類の生息・繁殖環境となる寄州の保全・創出を図るとともに、その寄州に生育する重要種ミゾコウジュやカワジシャ等の植物の保全に努める必要があります。
- 中流域では、上流域と同様、寄州の保全に加えて、重要種のササゴイやイカルチドリ等の鳥類の生息・繁殖環境となる河畔林や礫河原の保全を図る必要があります。
- 下流域では、重要種のウミニナ等の貝類の生息・繁殖環境となる干潟の保全や重要種のフクド等の植物の生育・繁殖環境となる河岸部の寄州の保全・創出を図る必要があります。また、河口部のアマモ場の保全・創出や熊本県産あさりの保全・育成に向け、関係機関と連携して取り組む必要があります。
- 佐敷川水系においては、アユ等の回遊魚の生息も見られるため、魚類等の水生生物の移動の妨げにならないように、河川の連続性の確保に取り組む必要があります。



【水質の保全】

- 水質環境基準の類型は、A類型($BOD2\text{mg/L}$ 以下)に指定され、平成3年の観測開始以降、環境基準を満たしており、良好な水質を維持しています。このように佐敷川流域は、良好な水質を維持しており、豊かな自然環境にも恵まれています。水質の保全に努めるため、河川の利用状況、沿川地域の水利用状況、現状の環境を考慮し、関係機関や地域住民との連携を図る必要があります。



佐敷川樺橋地点 BOD75%値

2. 3 河川環境の現状と課題

【良好な景観の維持・形成】

- 佐敷川水系の清らかな流れと豊かな自然が織りなす良好な河川景観の保全・活用を図るとともに、市街地においては自治体の景観計画等と整合・連携し、貴重な憩いの空間や観光資源としての水辺景観の維持・形成を図ることが必要です。



佐敷川上流部



宮の浦川上流部
山や水田と調和して流れる河川景観



佐敷川中流部



佐敷川上流部
山や水田と調和して流れる河川景観

【人と河川の豊かなふれあいの場の確保】

- 佐敷川水系は、豊かな自然環境や周辺の山々と調和した河川景観を有し、地域住民の憩いの場や観光資源として活かされています。また、その自然豊かな空間で人と河川がふれあうことにより、環境教育の場として活用され、河川環境の保全にも寄与しています。
- 特に乙千屋川はホタルの観賞の場になっており、乙千屋川砂防ダムから乙千屋橋までが芦北町ほたる保護条例(平成17年(2005年)1月1日、芦北町条例第22号)の保護区域・特別地域に指定されています。芦北町、熊本県、芦北高校、芦北町ほたるの里山保全連絡協議会等が協働してホタルの保全活動を実施しています。
- 河川整備にあたっては、現在の河川利用及び河川景観との調和を図るとともに、各河川の特性を踏まえ、より一層魅力のある河川空間を創出する必要があります。



出典:芦北町HP

保護監視員が発見した一番ばたる(令和6年)



乙千屋川のほたる保護区域



ホタルの鑑賞マップ(芦北町)

3. 河川整備計画の対象区間及び期間

3. 1 計画対象区間・対象期間

【計画対象区間】

- 佐敷川水系河川整備計画(以下、「河川整備計画」)の計画対象区間は、県管理区間全川とします。

【計画対象期間】

- 本計画の対象期間は概ね30年とします。
- なお、本計画は現時点での洪水の実績、流域の社会・経済状況、河道の状況等を前提として定めるものであり、これらの状況の変化や技術の進歩、気候変動の進展等を踏まえ、必要がある場合には、計画対象期間内であっても適宜見直しを行います。



4. 河川整備計画の目標に関する事項

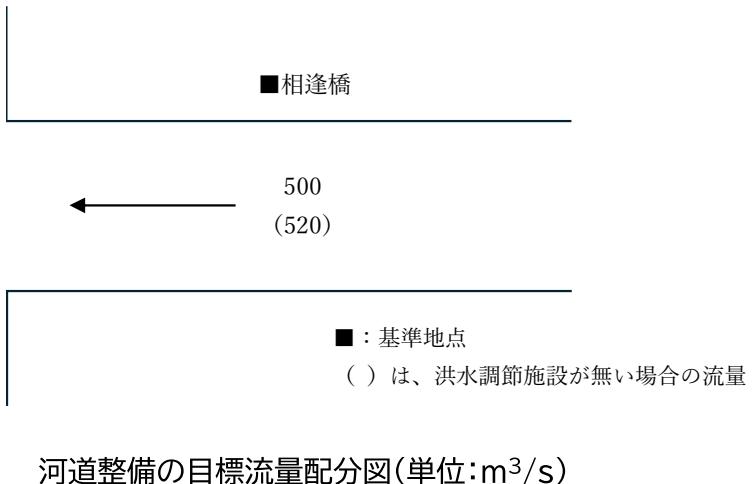
4. 1 河川整備計画の目標に関する事項

【河川整備の基本理念】

- 佐敷川は、またの名を藍川と呼ぶ清流で、県内有数の良好な水質を誇る豊かな自然環境を持つ河川です。大関山の麓より湧き出る豊富な水資源は地域の農業・産業に利用されるなど、佐敷川水系は流域の人々の生活・文化・営みと密接に関係するとともに豊かな恵みを与えてきた、地域の宝であり、流域住民にとってかけがえのない財産です。
- 河川整備計画では、佐敷川水系における治水対策を抜本的に見直し、流域のあらゆる関係者が協働し実施する「流域治水」への転換によって、気候変動による災害外力の増大も考慮した流域の治水安全度の向上を図り、関係機関等と連携・協働を図りながら、河川整備に取り組んでいきます。

【洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標】

- 河川整備計画における目標は、気候変動による降雨量の増加を考慮(1.1倍)して算出した年超過確率が概ね1/50規模の目標流量を安全に流下させることとします。
- 洪水対策については、流域の社会・経済的な重要度や沿川地域の水害リスクの状況、流域の土地利用、河川空間や河川水の利活用、豊かな自然環境等を考慮したうえで、河道掘削、堤防の整備、洪水調節施設の整備等を実施します。
- この河川整備を実施することにより、戦後最大の洪水である令和2年7月豪雨と同規模の洪水に対して、家屋の浸水防止など、流域における浸水被害を軽減できます。
- 令和2年7月豪雨を上回る規模の洪水が発生し氾濫した場合においても、被害をできるだけ軽減できるよう、ハード・ソフトの両面から必要に応じた対策を実施します。



【河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標】

- 河川水が流域の農業用水に利用されている状況等を踏まえ、今後とも関係機関と連携して水利用の合理化を促進するなど必要な流量の確保に努めます。

【河川環境の整備と保全に関する目標】

- 佐敷川水系が有する良好な河川環境を次世代に継承できるように保全するとともに、更なる良好な河川環境を創出するネイチャーポジティブを推進し、流域の持続可能な発展につなげていくことを目標とします。

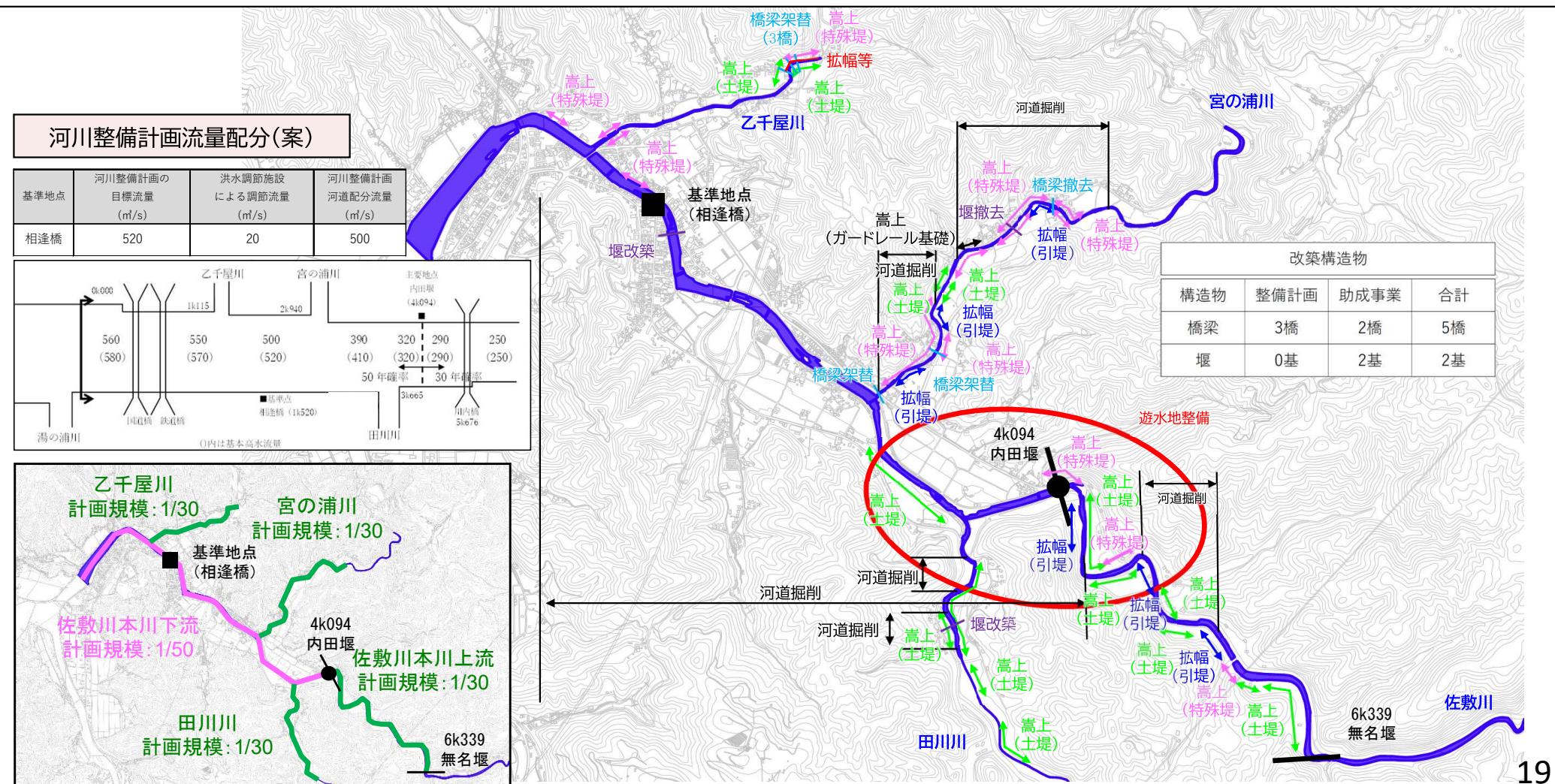
5. 河川の整備の実施に関する事項

5. 1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要

5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】：河道の整備及び遊水地の整備

- 洪水の流れる河道断面が不足している箇所において、河道掘削や河道拡幅等により河道断面を確保します。また、堤防の高さや幅が不足している箇所において、築堤等により堤防断面を確保します。
- 実施にあたっては、沿川の土地利用や上下流バランスを考慮します。また、植生や瀬・淵・ワンド・砂州等の多様な河川環境の保全・創出、自然豊かで良好な河川景観の維持・形成、河川利用との調和等を踏まえ、河道の整備と良好な環境の両立を図るとともに、下流への適切な土砂供給や河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持にも十分配慮し、関係機関と調整を図ります。
- 整備計画規模は、佐敷川本川下流(河口～4k094内田堰)は1/50規模とし、佐敷川本川上流(4k094内田堰～6k339無名堰)及び支川は1/30規模として、河道改修及び遊水地整備を実施します。

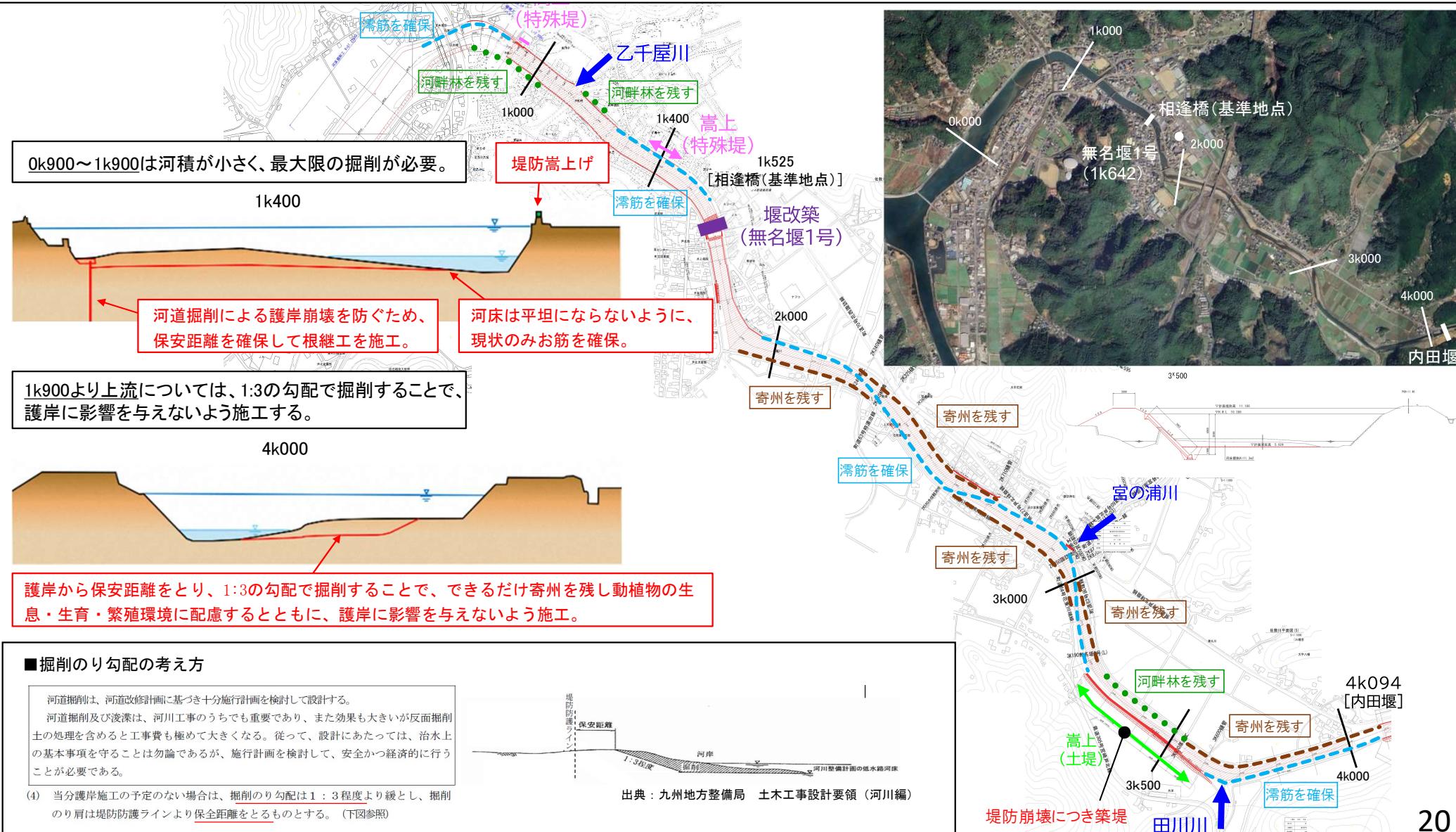


5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項



佐敷川(内田堰より下流)の整備計画概要

- 背後の土地利用状況を踏まえ、河道掘削による河道の整備を行います。
- 河道掘削のみでは河積確保が十分でない箇所については、河道や沿川の状況に応じて堤防嵩上げ等を適宜実施します。
- 無名堰1号(1k642)については、河積確保のために施設管理者と連携し改築を行います。

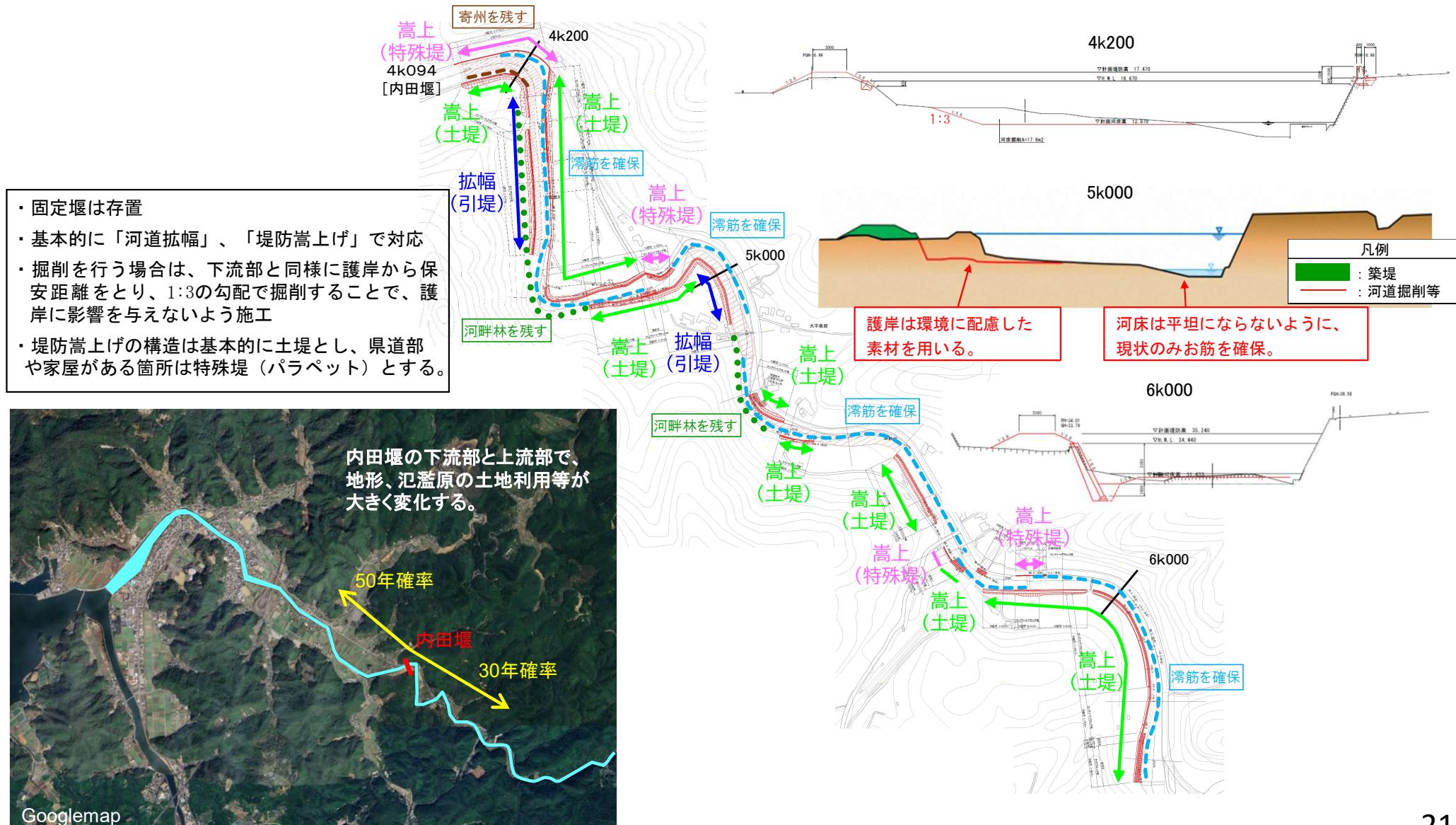


5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項



佐敷川(内田堰より上流)の整備計画概要

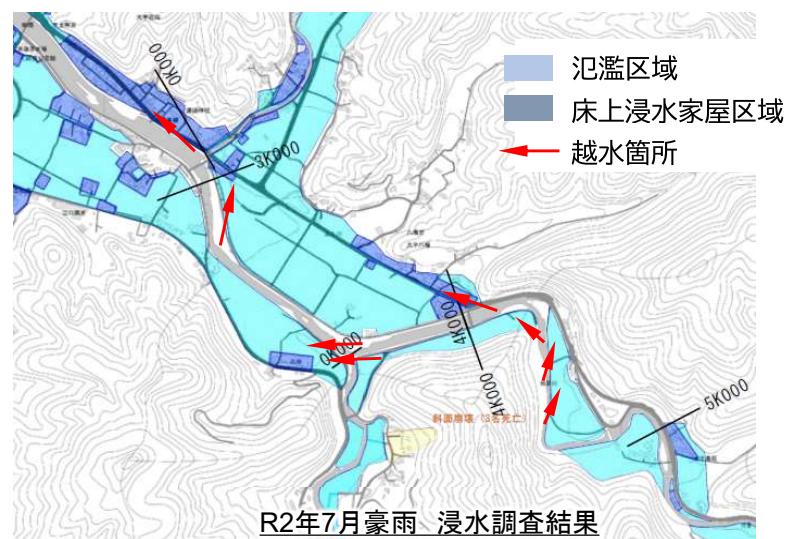
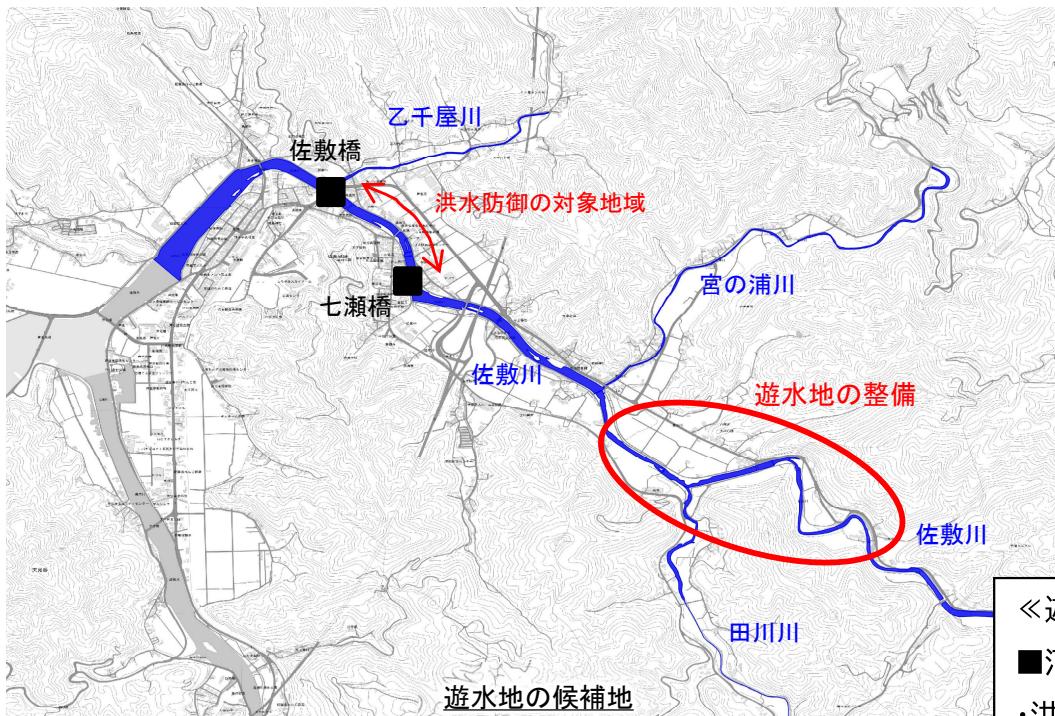
- 河道や堤内地の状況を踏まえ、河道拡幅や築堤等による河道の整備を行います。
- また、佐敷川上流部には、多くのかんがい用の取水堰(固定堰)が存在します。治水上影響がない場合、取水堰は存置する計画とします。



5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

遊水地の整備計画概要

- 年超過確率1/50規模の計画流量を安全に流下させるため、上流域に洪水を一時的に貯留する遊水地を整備します。
- 遊水地の整備にあたっては、地域の土地利用計画等と調整を図るとともに、関係者と事前に十分な協議を行った上で、適切な箇所に配置し、環境への影響の低減・緩和、環境の保全・創出を図ります。
- 遊水地では洪水時の流入状況を把握し、芦北町と連携して発信することで、周辺にお住いの方々への情報の周知、速やかな避難等に活用します。



«遊水地の候補地»

- 河川砂防技術基準より
 - ・洪水調節効果から考えると、治水計画上考えられている洪水防御の対象地域にできるだけ近いことが望ましい。
 - ・下流域になればなるほど対象洪水のハイドログラフが扁平になるため、カット量に比較して大きな容量を必要とし、山間部の貯水池のように大きな水深がとれないでの広大な面積を必要とする。
- その他、社会的影響や施工の容易性、維持管理の面からは、以下のような場所が候補地になりうる。
 - ① 支川合流部や谷地など水が広がらない場所
 - ② 川の水が引けば自然の力で速やかに排水できる場所
 - ③ 元々、浸水しやすい低地で住宅等が無い又は少ない場所

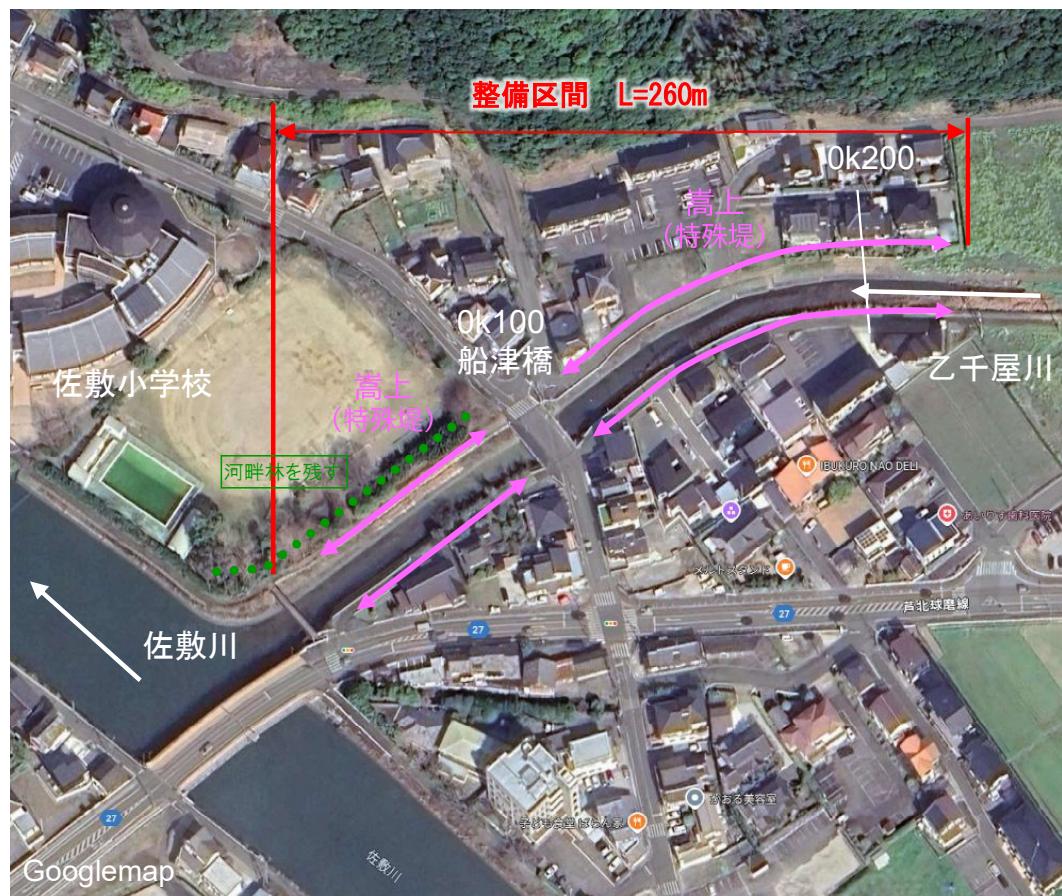
5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項



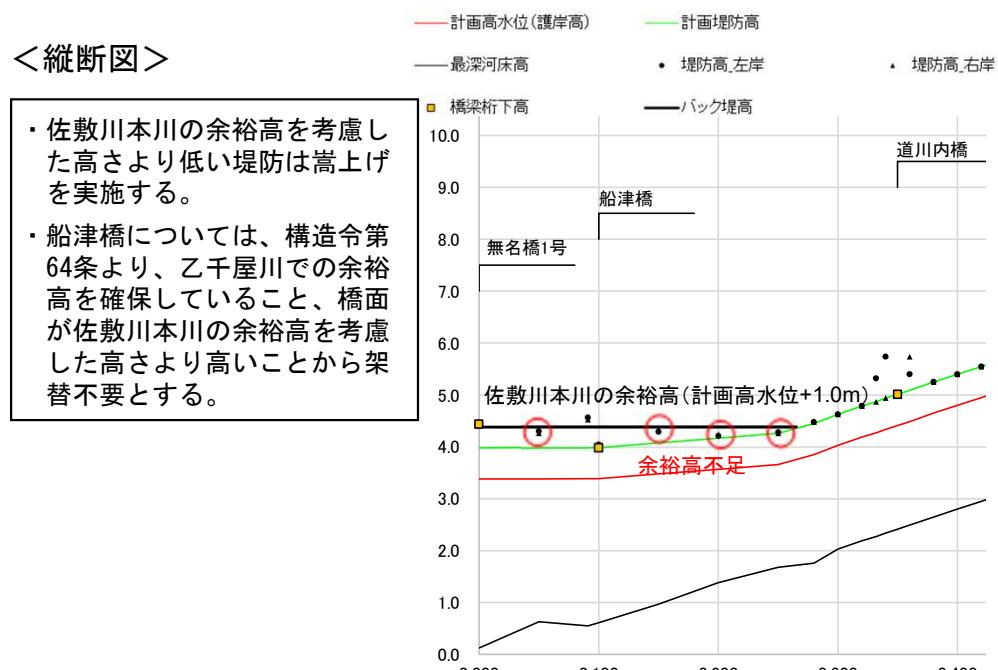
乙千屋川（合流部）の整備計画概要

- 現状では合流部に樋門等の施設がなく「バック堤」に該当するため、合流部付近では佐敷川本川同様1.0mの余裕高が必要となります。
- そのため、余裕高の不足する区間において、堤防嵩上げによる河道の整備を行います。

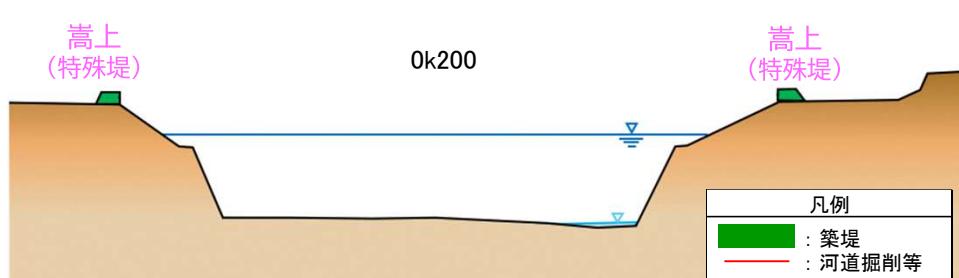
<平面図>



<縦断図>



<横断図>



5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

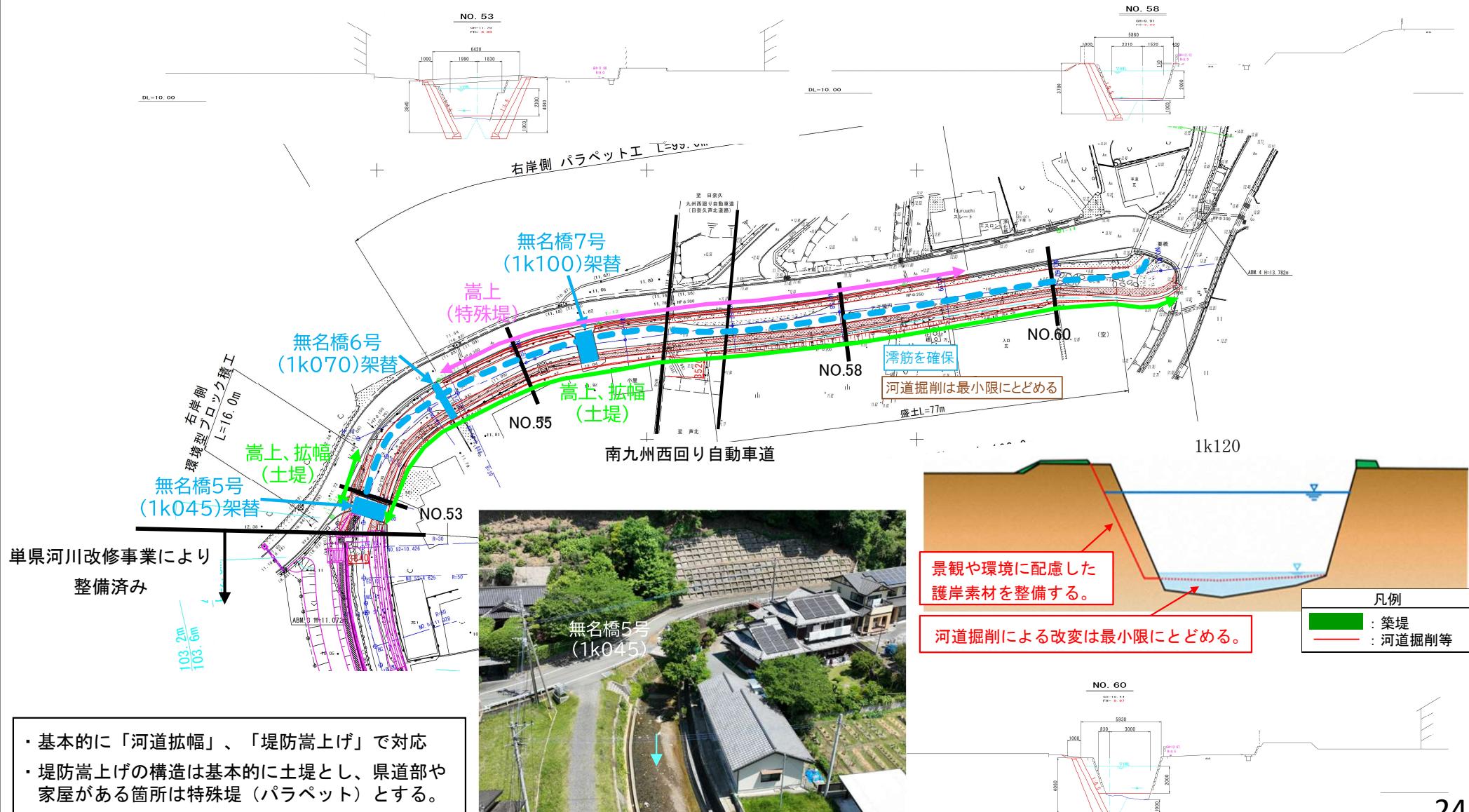


乙千屋川（上流部）の整備計画概要

- 流下能力が不足する区間について、河道拡幅、堤防嵩上げ等による河道の整備を行います。

※ 無名橋5号(1k045)より下流は単県河川改修事業(H4~H26)により整備済み。

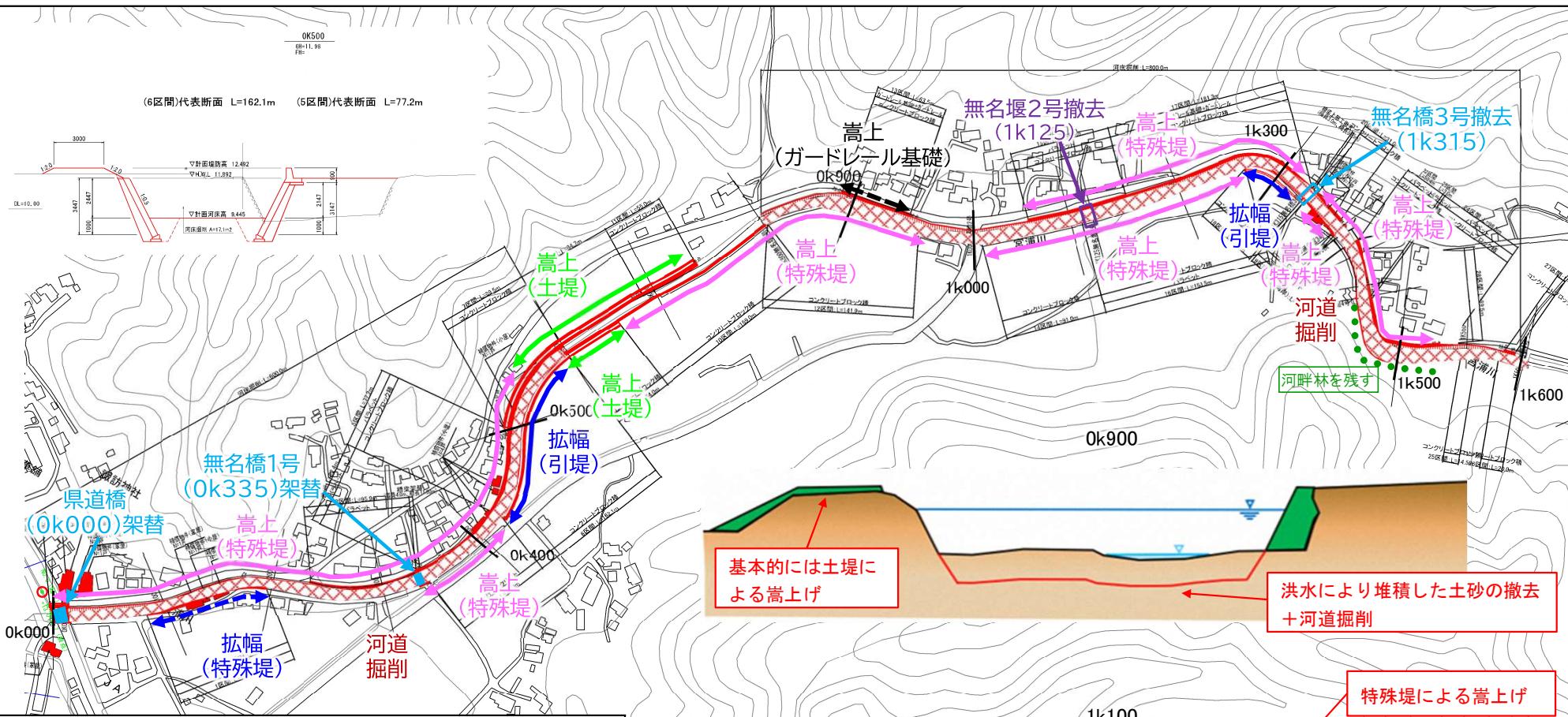
- 整備にあたっては、背後の土地利用や南九州西回り自動車道の橋脚等に留意します。



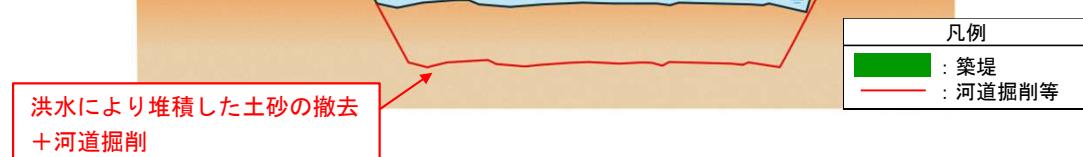
5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

宮の浦川の整備計画概要

- 堤防嵩上げ、河道掘削(堆積土砂の撤去を含む)による河道の整備を行います。
 - 県道橋(0k000)、無名橋1号(0k335)については流下断面不足のため架替を行います。
 - 洪水流下の阻害となっている横断工作物のうち、現在利用されていない取水堰・橋梁について、施設管理者と調整し、撤去を行います。



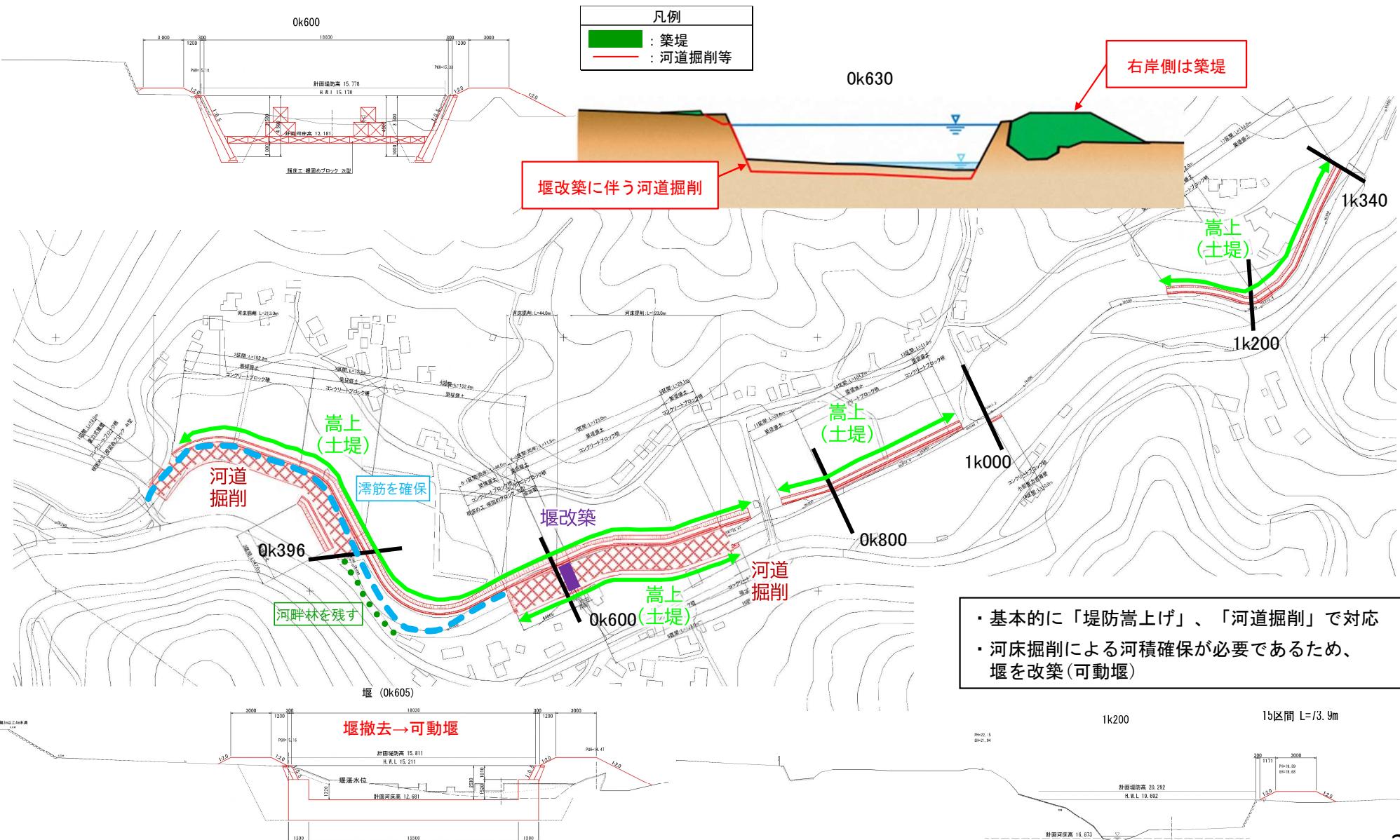
- ・基本的に「堤防嵩上げ」、「河道掘削」で対応
 - ・狭窄部のため、県道橋(0k000)、無名橋1号(0k335)は架替
 - ・無名堰2号(1k125)は現状利用されておらず、完全に埋塞し復旧が困難であるため、撤去
 - ・無名橋3号(1k315)は計画の高さが確保できないため、撤去(1k366の橋梁(大丸橋)が利用できるため、架替不要)



5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

田川川の整備計画概要

- 堤防嵩上げや河道掘削による河道の整備を行います。
 - 洪水流下の阻害となっている取水堰(0k605)については、被災により損壊していることも踏まえ、施設管理者と連携し改築を行います。



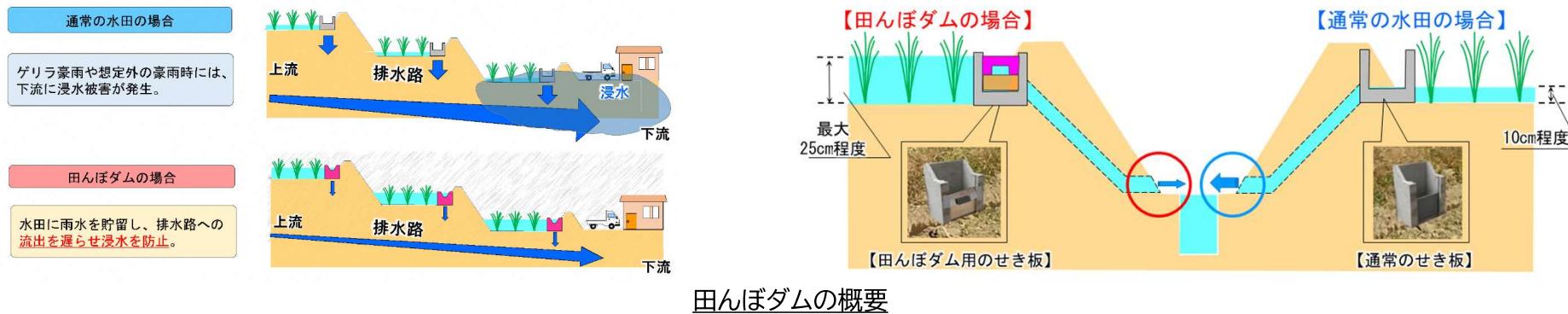
5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】：集水域における貯留・浸透機能の普及・拡大

【集水域における貯留・浸透機能の普及・拡大】

- 流域治水の一環として、「営農継続と水田貯留機能のフル活用による田んぼダムの取組み」等、集水域(森林、農地、都市)で様々な関係者が取り組む貯留・浸透機能の普及・拡大に向け、関係者と調整を図ります。
- より多くの関係者の参画や効果的な対策を促進するため、流域治水における貯留・浸透機能の重要性を発信するなど、理解の醸成や合意形成に協力します。

※田んぼダムとは、水田の排水枠に田んぼダム用の「せき板」を設置し、水田に降った雨水を貯めることで、河川への流れ込みを抑える取組みです。



田んぼダムの概要

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】：土砂・流木対策

【土砂・流木対策】

- 令和2年7月豪雨等の洪水時に、大規模な土砂の堆積や多量の流木が発生したため、洪水中も流下能力を維持できるよう、土砂の堆積しにくい河道、土砂の流出抑制施設、流木の捕捉施設を整備する等河川区域における土砂・流木対策を実施します。
- 流域全体で洪水中の堆積土砂や流木の発生をできるだけ防ぐため、伐採跡地における再造林による森林再生、山地防災力の向上に取り組む治山事業、下流域への土砂流出抑制や土石流対策等に取り組む砂防事業等の集水域の関係者と連携し、流域治水における土砂・流木対策の重要性を発信するといった、森林の適正な保全に向けた理解の醸成や合意形成に協力します。

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】：内水対策

【内水対策】

- 佐敷川では背後地の地盤高が洪水時の河川水位に比べて低い箇所が多く、近年においても支川等の溢水による内水被害が発生しています。芦北町でも支川等に排水機場を設置するなどして被害軽減を図っていますが、堤防嵩上等の対策によっては内水被害を助長する可能性もありますので、今後も芦北町等の関係機関と連携・調整を図り、適切な役割分担のもと、効果的な内水被害の軽減対策をハード・ソフト両面から進めていきます。

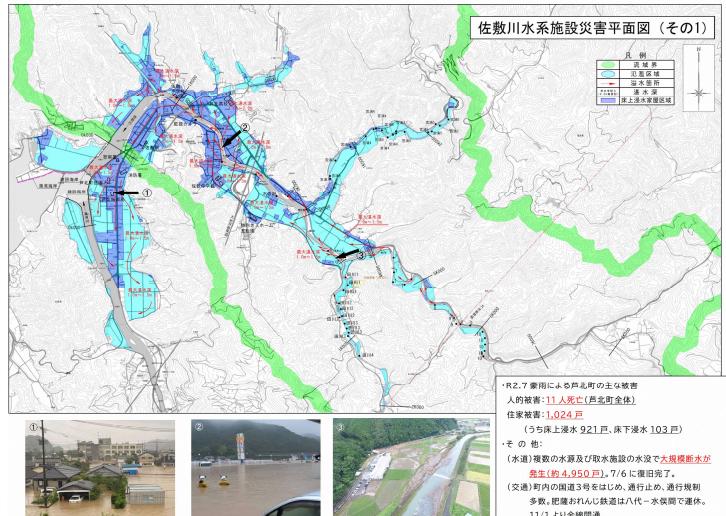
5.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項



【被害対象を減少させるための対策】：土地利用の規制・誘導の促進

【土地利用の規制・誘導の促進】

- 氾濫域においては、土地利用規制やリスクの低いエリアへの誘導等が適切に行われるよう、令和2年7月豪雨における氾濫形態や洪水浸水想定区域図等の災害リスク情報を提供するとともに、必要な技術的支援を行います。



【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】：円滑な避難に向けた支援

【土地利用の規制・誘導の促進】

- 住民の円滑な避難の支援に向けて、洪水時の情報を関係機関に提供するために、必要に応じて水位計や河川監視カメラ等を設置します。
- 災害時だけでなく平常時から地域の活動や学校教育を通じて、避難方法に加え河川整備の役割や水位計・河川カメラ等による情報の扱いについて発信し、地域住民の防災意識の向上を図ります。これにより、被害の軽減に向けた水防体制の強化と、関係機関や地域住民との連携強化を推進します。



5.1.2 河川環境の整備と保全に関する事項

【河道の整備と良好な環境の保全の両立】：水域における瀬・淵等の良好な環境の保全

【水域における瀬・淵等の良好な環境の保全】

- 河道の整備にあたっては、自然環境が有する多様な機能を生かすグリーンインフラ※の考えを取り入れながら、現在の平水位、瀬・淵・砂州等の河道状況や生物の生息状況等をしっかりと調査・確認した上で、整備に伴う環境影響の回避・低減を図るだけでなく、多様な生物の生息・生育・繁殖環境の保全に努めます。

※グリーンインフラ

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能(生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等)を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。



瀬・淵が存在する良好な河川環境の例

【河道の整備と良好な環境の保全の両立】：良好な景観の保全

【良好な景観の保全】

- 河道の整備にあたっては、河川の瀬や淵、河畔林が周辺と一体となって、良好な景観が形成されていることを踏まえ、整備に伴う影響の回避・低減を図り、周辺の景観との調和に努めます。
- 芦北町の景観計画等との整合・連携を図るなど、関係機関や地域住民と連携しながら地域づくりに資する川づくりを推進します。



山々や水田と調和する河川景観(佐敷川)

【河道の整備と良好な環境の保全の両立】：人と河川とのふれあい空間の保全・創出

【人と河川とのふれあい空間の保全・創出】

- 河道の整備にあたっては、自然環境や社会環境、景観、水質、親水、河川利用者の安全面等の多様なニーズや治水上の影響を踏まえつつ、関係機関や地域住民と連携しながら、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を行うことを見据え、川遊び等に利用されている空間の保全に努め、人と河川との豊かなふれあいによる親水性に配慮します。
- また、各種行事・イベントを通じた河川愛護意識の普及啓発を進め、沿川の住民参加による河川管理を推進するとともに、インターネット等様々な情報伝達手段を用いて河川情報の共有化を図ります。

5.1.2 河川環境の整備と保全に関する事項

【次世代に継承する良好な環境の確保・創出】

【生物を育む良好な環境の保全・創出】

- 上流域では、重要種のルリヨシノボリ等の魚類の生息・繁殖環境となる寄州の保全・創出を図るとともに、その寄州に生育する重要種ミゾコウジュやカワジシャ等の植物の保全に努めます。
- 中流域では、上流域と同様、寄州の保全に加えて、重要種のササゴイやイカルチドリ等の鳥類の生息・繁殖環境となる河畔林や礫河原の保全を図ります。
- 下流域では、重要種のウミニナやシロウオ等の生息・繁殖環境となる干潟や礫床の保全を図ります。また、重要種のフクド等の植物の生育・繁殖環境となる河岸部の寄州の保全・創出を図ります。
- 佐敷川水系においてはアユ等の回遊魚の生息も見られるため、魚類等の水生生物の移動の妨げにならないように、河川の連続性の確保に取り組みます。
- また、佐敷川河口部のアマモ場や、乙千屋川のホタルの生息環境の保全・創出に向け、関係機関と連携して取り組みます。



沿川の河畔林(佐敷川)



河口部の干潟(佐敷川)



改築中の堰 魚道を計画(佐敷川)

【濁水が発生しにくい流域環境の確保】

- 山腹崩壊が生じやすい地形・地質で、土砂流出による濁水が発生している箇所では、治山や砂防等の集水域の関係者と連携して適切な土砂管理や森林整備を促進し、濁水発生の軽減に配慮します。
- また、佐敷川河口域の干潟の一部は、「熊本県産あさりを守り育てる条例」に基づき、県産あさりの資源の保全及び育成を図る「あさり資源育成促進区域」として指定されているため、河床の掘削等に係る工事実施の際には、泥分率の高い土砂の流出抑制に取り組みます。

5.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

5.2.2 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項



【水文・水理調査】

- 流域内の雨量、河川水位等の観測・調査をして実施し、流域の流出特性や河道特性等の把握に努めます。

【河道の測量・調査】

- 河道の縦横断測量や空中写真測量、河床材料等の調査を行い、河道の経年的な変化や大規模洪水後の河道変化等の把握に努めます。

【河道の維持管理】

- 堆積土砂による流下能力の低下や樋門、樋管等の埋塞を防ぐため、堆積土砂の除去を行います。

【堤防等の維持管理】

- 河川管理施設の必要な機能が発揮されるよう、適切に巡視・点検を行い、施設の状態を把握するとともに、長寿命化計画に基づく補修・更新を行って予防保全に努めます。

【総合的な土砂・流木対策】

- 河川内の土砂の流出抑制施設や流木の捕捉施設において、堆積した土砂や捕捉した流木の状況を把握し、適切に除去します。

【許可工作物の管理・指導】

- 施設の管理状況を把握し、施設管理者に対し、施設を良好な状態に保ち河川管理上の支障にならないよう、技術的な基準を踏まえた適切な指導を行います。

【不法行為に対する監督・指導】

- 定期的な河川巡視等により、不法行為等の未然防止と早期発見に努め、必要に応じて、町や警察と連携し、法令等に基づいた不法行為の是正のための措置を行います。

【的確な水防活動の促進】

- 集中豪雨による急な水位上昇等に対応するため、危険箇所において、必要に応じて水位計や河川監視カメラを設置し、洪水時の情報を水防管理者等にリアルタイムで提供します。

【住民の円滑な避難の支援】

- 避難指示等の発令判断の目安となる水位情報をホットライン等の様々な手段で関係機関へ迅速かつ確実に伝達します。
- 平常時から、洪水浸水想定区域図を作成し周知に努めます。また、各種タイムライン(防災行動計画)の作成・運用、地域住民も参加する地区防災計画の作成や防災訓練、学校等における防災教育に芦北町等と連携して取り組み、地域住民が早めの避難を円滑に実施できるよう支援とともに、芦北町が避難所や避難路を整備する際は、必要な技術的支援を行います。



地区防災計画作成支援



防災行動計画「マイ・タイムラインガイドブック



関係機関と連携した熊本県防災情報メールサービス

5.2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項



【平常時の水管理】

- 水利用及び河川環境の保全等、流水の正常な機能の維持を図るため、関係機関と連携し、水量・水質の監視を行うとともに、利水者との情報共有を図ります。

【渇水時の水管理】

- 渇水等の被害を軽減するため、平常時から、河川管理者と利水者が相互に情報交換を行い、利水者相互間の水融通の円滑化に向け、関係機関及び利水者等と連携を図ります。
- 渇水対策が必要となった場合は、関係機関と連携しながら利水者との情報連絡体制を強化し、必要に応じて取水制限等の渇水対策を行い、渇水等の被害の軽減に努めます。

5.2.4 河川環境の整備と保全に関する事項

【河川環境の把握】

- 良好な河川環境を保全するため、動植物の生息・生育・繁殖状況や地域で取り組まれている環境保全活動について、定期的な河川巡視や地域住民への聞き取り等により継続的に把握します。

【多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全】

- 河川環境整備により創出した河川上下流の連続性や河川と水路の連続性について、関係者との連携を図りつつ、状況を調査・確認し、良好な環境を保全します。

【水質の保全】

- 水質の保全に努めるため、河川の利用状況、沿川地域の水利用状況、現状の環境を考慮し、関係機関や地域住民との連携を図ります。

【流下物・投棄物の対策】

- 河川巡視により監視を行い、不法占用等の未然防止に努め、不法投棄については芦北町や警察と連携し適切に対応します。

【河川空間の適正な利用】

- 河川利用者に対し、自由使用の原則の下で、他の河川利用者や近隣の住民に対する危険行為や迷惑行為とならないよう、また、治水、利水、動植物の生息・生育環境、河川景観と調和した適正な利用となるよう、河川や地域の特性を考慮し、芦北町等と連携して周知等に取り組みます。

【安全利用対策】

- 河川を安全に利用するために日頃より水位等の河川情報の提供及び啓発活動等を実施します。

【地域との協働による維持管理】

- 堤防等における除草等の維持管理については、地域住民、芦北町等の参画を促進します。

6. その他河川整備を総合的に行うために 留意すべき事項

6. 1 その他河川整備を総合的に行うために留意すべき事項

【流域のあらゆる関係者との連携】

- 流域治水の考え方に基づき、集水域(森林、農地、都市等)の事業者と一体的に連携し、河川整備を進めます。そのため、芦北町等の行政関係者に加え、地域住民、企業、学校等流域のあらゆる関係者との連携により河川整備を進めるとともに、令和2年7月豪雨の被害状況や、住民の避難行動、被災施設の復旧状況、住まいやなりわいの再建といった復興への取組みなどを継承し、災害リスクや川がもたらす恩恵を共有するとともに、情報共有や意見交換の場を設けるなど平常時から上下流の交流・連携を促す取組に努めます。
- また、川において環境・防災教育に取り組む学校や保育園等の関係者が、より円滑に活動できるよう、流域における集水域・川・海のつながり(水循環、自然環境、流域治水等)を解説する出前講座等の支援に努めるとともに、河川整備や芦北町の防災まちづくり等を進めるための意見交換の場づくり等にも取り組み、双方向のコミュニケーションを図ります。



出典:芦北高校

アマモの保全活動



出典:芦北高校



出典:芦北高校

乙千屋川のゲンジボタル復活に向けた活動

【地域コミュニティの強化への支援】

- 気候変動に伴う気象状況の変化により、今後も想定を上回る洪水等の災害が発生する可能性があります。一方、超高齢社会において災害時に支援を要する方々が増加することが予想され、災害時の安全かつ迅速な避難が必要です。
- 被害軽減を図るためにには、地域住民の主体的な行動による自助・共助が不可欠であり、地域が一体となって取り組むよう、地域コミュニティを強化していく必要があります。このため、地域防災リーダー等地域コミュニティの中心となる人材の育成に取り組むとともに、住民参加型訓練や地区防災計画の作成等地域コミュニティの取組みを支援します。また、住民の方に楽しみながら防災を学んでいただけるよう防災フェスティバル等の機会を利用し、自主防災活動の推進や地域における防災意識の高揚を図ります。



自主防災組織活動



避難訓練
(防災倉庫内容物確認訓練)



避難訓練
(避難訓練後振り返り)



自主防災防災フェスティバル活動